

「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」発足にあたって

「報告と提案」

提案：寝屋川市原爆被害者の会・会長 山川美英

1. 「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」発足に至る主な経過

*2016年3月27～31日

核兵器禁止条約を交渉する国連会議・第一会期

*2016年4月

「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶署名」（以下、ヒバクシャ国際署名）取り組み開始

*2016年8月6日

「ヒバクシャ国際署名推進連絡会」が中央で発足。現在44団体加盟。

*2017年6月

国連での核兵器禁止条約交渉会議で日本被団協代表が、2,963、889筆（目録）をエレン・ホワイト国連会議・議長に提出

*2017年7月7日

核兵器禁止条約が国連で採択（賛成122ヶ国、棄権、反対各1ヶ国）

*2017年9月4日～

大阪5行政区（岸和田市、吹田市、門真市、枚方市、寝屋川市）原爆被害者の会会長が「ヒバクシャ国際署名推進大阪連絡会」（仮称）の発足をよびかける。

*2017年9月11日～10月18日

寝屋川市原爆被害者の会・会長山川美英らが各団体に「懇談会」参加を呼びかけ要請する。

*2017年9月20日～

核兵器禁止条約の署名スタート。12月9日現在56ヶ国が署名。
（批准3カ国）

*2017年10月

- ・核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞受賞に決定
- ・国連第一委員会（軍縮）は「核兵器禁止条約を歓迎する」決議を採択。
- ・国連第一委員会での日本政府決議「核兵器の全面廃絶にむけて新たな決意の共同行動」は、禁止条約に触れず各国政府から批判殺到。

*2017年10月23日

「ヒバクシャ国際署名推進大阪連絡会」（仮称）発足にむけた「懇談会」（大阪弁護士会館、25団体、40名参加）

*2017年11月

- ・ローマ法王庁（バチカン）が、核兵器禁止に関する国際会議
- ・平和首長会議が、「すべての国に早期批准を求める署名」開始

*2017年11月21日

「ヒバクシャ国際署名推進大阪連絡会」（仮称）発足に向けた第二回「懇談会」（大阪弁護士会館、22団体、29名参加）

*2017年12月10日

オスロでノーベル平和賞受賞式。ICAN・サーロセツコさんが初めて被爆者として国連で演説。

2. 「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」の基本的立場

①今年7月の「核兵器禁止条約」の採択は、この十数年の世界の人々の粘り強い取り組みの成果だと大変うれしく思いました。

これは世界中を驚かせました。何しろこれまで「非人道的な大量破壊兵器である核爆弾は、あって当たり前」という認識にさせられていたきらいがありました。核保有国は、今も「核抑止力」のため自国と世界の安全保障に貢献して保たれている」と言っております。しかし「禁止条約」は、これを180度転換し、国際法上違法だとした点で画期的な条約だと思います。同時に「使用の威嚇」も禁止しました。広島・長崎への投下から72年間の核兵器保有国の核戦略体系の核心を衝く重要な決定だという点でも、アメリカなどの政策の変更を迫る事項であるという点でも歴史的ともいえることだと思います。

9月20日にスタートした禁止条約の署名には、すでに56か国が参加し、3か国が批准していますが、様々な困難や圧力をはねのけて一日も早い条約の発効が期待されています。

被爆者と反核平和を願う国民は条約を大歓迎しますし、つい先日「ノーベル平和賞」を「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」という平和NGO団体が受賞したことも草の根の運動に対する高い評価として嬉しく思っております。

②今、アメリカと北朝鮮が核兵器をめぐる口を極めた罵り合いをしています。何かの間違いで戦争に発展することもありうる大変危険な状況と言えます。核兵器は一度使用されると、取り返しのつかないことになるのは明白です。国連が採択した禁止条約をすべての国が批准するよう働きかけることは、きわめて崇高な行為であり、全ての人々の願いに応えることだと考えています。

特に、私たちの日本政府が、この条約に反対しているのは恥ずべきことだ

と思います。日本の私たち被爆者と国民は、特別に大きな責任を担っているという事を強調したいと思います。

- ③こうしたことを考えますと、これからの運動はますます重要で、むしろ「これからの運動が大切」と言う事につきます。この署名の活動は誰にでもできる活動ですし、効果のある活動です。相互に励ましあって世論を高めようではありませんか。

署名は、昨年4月開始以降、9月24日現在、国内では515万筆と発表されています。

私たちが呼びかけているヒバクシャ国際署名推進の「大阪の会」ですが、このような署名推進の組織は、中央では「署名推進連絡会」として44の多彩な組織が違いを越えて参加しています。地方でも同様の「地方連絡会」、「県民の会」が23都道府県で結成され活動がすすめられています。「大阪でも」という事で、発足を呼びかけさせていただきました。ご承知の「平和首長会議」もこの署名に全面的に協力を表明しています。首長の賛同署名は自治体の過半数の891自治体に広がり、長崎、岡山、鳥取などでは全自治体首長が署名しておられます。大阪では、43自治体中19自治体首長の署名状況となっています。

- ④以上のような状況のもと、この大阪でも様々な組織や運動の目的と歴史、主義や信条などの違いを越えて、核兵器廃絶に向かって署名を進めるという一点で大同団結し、府民世論を喚起するためイベント、宣伝など大規模展開する組織が必要と考えています。

同時にまた、この組織が署名の促進という一致点ですすめるためには、緩やかな組織が好ましいのではないかと考えています。

そしてこれらの運動の費用は、行動に見合った寄付、協賛金などを考えることも必要だと思っています。

以下、組織について具体的に提案させていただきます。

3. 略称「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」について

①名称

正式名称は、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶署名をひろげる大阪の会」（略称は、「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」）とします。

②目的・活動

- * 「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」は、2020年末を期限とし、中央での「ヒバクシャ国際署名推進連絡会」に対応する大阪の組織と位置付けます。署名数は、大阪府民過半数をめざして、各団体・個人がそれにふさわし

い目標と計画、行動をされるように期待します。

- * 「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」(略称:「ヒバクシャ国際署名」)に取り組み、各組織で集約しますが、個人などの場合の署名は、「大阪の会」でも集約します。
- * 署名への賛同を広く大阪府民にひろげ国連に提出する。あわせて、核兵器禁止条約が採択され、条約が発効する状況を踏まえて、日本政府や核保有国に対しても条約を批准するよう世論を盛りあげます。
- * 「ヒバクシャ国際署名」推進のために各団体が自主的、主体的な運動に取り組むことを基本としつつ、適宜、必要に応じて共同で宣伝・啓蒙活動、学習会、集会などのイベントに取り組み、広く府民に参加を呼びかけます。

③組織

「大阪の会」は、前述②の目的・活動に賛同する団体、個人で構成します。

以下の体制で運営に当たります。

☆代表世話人に選出します(順不同)。

* 吹田市原爆被害者の会会長・元大阪府原爆被害者の会理事長

阪口 善次郎

* 寝屋川市原爆被害者の会会長

山川 美英さん

* 核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) 大阪府支部長

安田クリニック院長 安田正幸さん

* 大阪YWCA 運営委員

津戸真弓さん

* しない、させない! 戦争協力関西ネットワーク代表

弁護士

中北龍太郎さん

* 大阪憲法会議幹事長・龍谷大学教授

丹羽 徹さん

なお、今後さらに幅広い団体からの参加がある場合には代表世話人を増やすことも検討します。

☆事務局長は「大阪の会」を統括します。

日本反核法律家協会理事、弁護士

梅田章二さん

☆運営委員会を設置し、「大阪の会」の運動への企画立案、運営などを協議します。ただし、現在も賛同団体を増やすべく努力中であり、当面は事務局長以下で対応します。

☆以下の事務局団体は、日常業務を処理します。

寝屋川市原爆被害者の会、大阪原水協、大阪平和委員会、大阪民医連。

☆会計

「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」として口座番号を郵便局に開設し、担当を森容香さん(枚方市原爆被害者の会会長)とします。

* 参加団体・個人の自主性を尊重し、参加する団体の平等を保障し、互いの誹

謗中傷は行いません。

*代表世話人、運営委員団体、事務局、会計による会議を適宜行います。

④財政

- 1) . 「ヒバクシャ国際署名推進・大阪の会」の財政は、賛同団体・個人の協賛金と寄付金で賄います。会費制はとりません。
- 2) . 団体は一口 3000 円、個人は一口 1000 円の協賛金を募り、できれば複数口の協賛金をお願いし、ご協力をよびかけます。
- 3) . 「大阪の会」として、大規模な行事に取り組むとき場合には、別途、協賛金、寄付金をお願いすることもあります。

⑤所在地

「大阪の会」は、以下の二団体を所在地とします。

- 1) 寝屋川市原爆被害者の会（寝屋川市広長友の会）

〒572-8533 寝屋川市池田西町 28 番 22 号

寝屋川市立総合センター内 TEL (072) 824-1181

- 2) 原水爆禁止大阪府協議会

〒542-0012 大阪市中央区谷町 7 丁目 3 番 4 号

新谷町第三ビル 210 号 TEL (06) 6765-2552

Fax (06) 6765 -2837

メールアドレス：osk-gensuikyo@piano.ocn.ne.jp

4. 当面の活動方針案

- ①「ヒバクシャ国際署名への府民へのアピール」の発表
発足総会の名において『「ヒバクシャ国際署名」に賛同し、署名への協力を大阪府民によびかける』アピールを発表し拡げます。
- ②2018 年春頃
「大阪の会」としての核兵器をめぐる国際情勢についての学習と相互交流のための集会(200 名程度?規模)を開催します。
- ③2018 年秋
「核兵器のない世界をめざし、日本政府に核兵器禁止条約の批准を求める大阪府民大集合」(仮称)の開催を検討します。幅広い団体、著名人などの賛同、推薦もお願いし大規模に開催します。
- ④2020 年 NPT 再検討会議、2018 年 NPT 再検討会議第二回準備委員会、2018 年 5 月国連核軍縮に関するハイレベル会合等に対応した必要な行動を「大阪の会」としても検討します。
- ⑤ヒバクシャ国際署名運動について適宜、必要な経験交流などを行い、ニュースなどを発行します。

⑥その他

以 上